

高向小学校(5年1組)間伐体験 (日野・K様所有林にて) 「カワバタファーム学びの森」

2018年2月28日

森林の働き

森林には色々な働きと役割があります。
まず、日本の家づくりに欠かせないスギ・ヒノキ・マツなど針葉樹の生産です。ブナ・ナラ・トチなどの広葉樹は家具に使われたり、その他、最近では木材チップやペレットなどを利用したバイオマス発電の燃料の生産も注目されています。

森林の役割の中でも重要なのは、災害を防ぎ国土を守る働きです。健全な森林は、樹木が土壤に根をしっかりと張って、山崩れなどの災害を防ぎます。森林(土壤)が雨水をためて川下への流出を遅らせて、水量を一定に保って洪水や水不足を緩和する働きがあります。このような働きのことを「水源涵養(かんよう)」と言います。健全な森林では、背の高い木々の下に低木やシダ類などの下草が表面を覆っていて、大雨による土壤侵食と流出を防いでいます。手入れのできていない森林では、陽の光が届かない暗い森林となり、土の表面がむき出しになってしまいます。下草類が十分育った森林では、土中生物、キノコ、昆虫、鳥類など様々な生物が生育する豊かな自然環境(生態系)が生まれます。

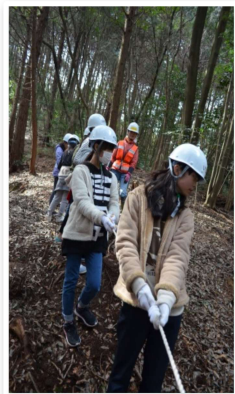
皆さんが体験した間伐などの森林の手入れはこの様な健全な森林を保つための大切な作業です。



ロープ上げに挑戦



初めての間伐体験



年輪の話



木の断面に見える同心円の模様を「年輪(ねんりん)」と言います。木の皮をはいだ時に現れる白い部分が「年輪」のもとになります。この部分は「形成層」と呼ばれ、外側に樹皮をつくり、内側には木となる部分をつくります。春から初夏にかけての気温の暖かい時期には成長が旺盛となり色の白く柔らかい部分となり、夏以降は成長が遅くなって硬くて色の濃い部分になります。この部分が「年輪」になります。「年輪」は1年に1つずつ外側に増えます。「年輪」はその木の年齢を表しています。